

明治大学博物館広報誌

MUSEUM EYES

ミュージアム・アイズ

Vol. 78

特別展 校友山脈 第Ⅱ部
神田学生街 140年の今⇕昔

特集

新たな広報戦略

NEWS / 展示 Zoom in! / 博物館研究最前線 /
収蔵室から / M2 カタログ

特集

新たな広報戦略

近年、明治大学博物館の来館者数は年10万人を超えようになりましたが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大前の1割程度と大きく落ち込んでいます。また、博物館・美術館の利用者は高齢層に偏る傾向があり、明治大学でも在学生の来館者は少なく、博物館の存在を知らずに卒業していく学生が多いことは悩ましい問題です。そこで現状を打破すべく、博物館学生広報アンバサダーの導入を皮切りに、感染状況を注視しながらも来館の促進を図るため、2021年6月に広報活動の強化を目指した広報チームを新たに立ち上げました。困難や難題に直面してもひるまずひたすら「前へ」と進む—大学博物館として知の継承というミッションに挑戦するための広報的な取り組みをご紹介します。

ミュージアムキャラクターアワード2021 「捕者めいじろう」がグランプリに輝く！

「ミュージアムキャラクターアワード」とは、キャラクターを通じてミュージアムを知ってもらい、そのミュージアムに足を運ぶきっかけにしたい、その目的とした催しで、2010年から毎年開催されているイベントとなります。



45日間にわたる投票期間（7月27日から9月9日）で、めいじろうは「1万4049票」を獲得し、栄えある2021年のグランプリに輝きました。

10月13日には表彰式が執り行われ、『インターネットミュージアム』編集長の古川幹夫氏から、千葉修身館長（商学部教授）、長尾進副館長（国際日本学部教授）に表彰状と表彰楯が手渡され、「ミュージアムは堅い、敷居が高いと思っっている方々に対して、めいじろうのキャラクターを生かして、これからも広報活動などで活躍していただきたい」と期待が寄せられました。

「捕者めいじろうTシャツ」を制作

ホライズンブルーの窓枠からひょっこり顔を出すめいじろうが可愛いデザイン。Tシャツ地はシンプルなホワイト、胸元のワンポイント仕様なので、普段使いしやすいのが特徴です。ぜひ着用して、めいじろうとお出かけを楽しんでください。



着用参考画像
(164cm Mサイズ)



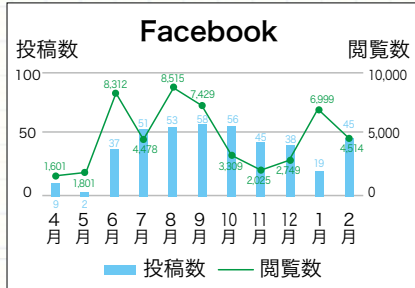
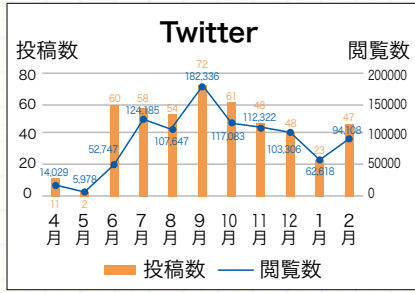
【ホライズンブルー】
明治大学創立140周年記念事業のテーマカラーとなっており、空色の一種で、地平線近くの淡い緑みの空色

【販売価格等】1枚1,100円（税込）、サイズ:XXL、XL、L、M、S

SNSによる発信



明治大学博物館では Facebook、Twitter、Instagram の3媒体に対しイベント情報や各種案内告知を散発的に投稿していましたが、2021年6月からは投稿チームを組織化して発信の強化を図りました(グラフ参照)。まずは、企画展「絵図が語る内藤藩の歴史」の紹介を中心に各種案内の発信頻度を増しました。閲覧数の顕著な増加に手応えを得、7月からは特別展校友山脈(会期7/31~11/3)の事前広報として「校友紹介」「大学史さんぽ」を発信開始、開幕後は「見所紹介」も合わせて会期中3本のシリーズを発信し続けました。



2022年2月22日 現在

特別展広報開始に前後し、大学の公式キャラクターが博物館及び駿河台キャンパス周辺の案内をコンセプトとする、「学生広報アンバサダー」による「めいじろうとおさんぽ」が始まりました。Mインターネットミュージアムのイベント「ミュージアムキャラクターアワード」に当館の捕者めいじろうがエントリーしたこ



とから(7/27投票開始)、8月以降はコンセプトをアワードの広報に継承しました。アワード終了後には、ライバルであった広島大学総合博物館のヒロググとコラボレーションによる紹介記事も実現しています。

特別展示室のイベントだけでなく、一般的には注目度が低いと言われる常設展についてもスポットを当てるべく、「常設展もすごい」を8月19日から開始しました(12月終了)。また、ボリュームのある解説記事



に対するニーズを考慮し、以前は本誌に連載していたタイトルをオンライン上に移し、展示あるいは収蔵されている資料や研究動向について担当者が解説するFacebook版「学芸研究室から」も8月26日から発信を開始しています。



それ以外にも、人気投票をおこなって土偶のグッズ(アクリルキーホルダー)を制作したり、日常的な業務の1コマを紹介するなど、

多彩な情報の発信に努めています。年が明けた1月からはnoteでの発信も加わり、今後はメディア別のユーザー特性なども分析し、効果的な発信をおこなってゆきたいと考えていますのでご期待ください。



Facebook

Twitter

Instagram

note

新型コロナウイルス感染症への対応

2021年7月12日より平日10時～17時、土曜10時～12時30分の開館体制を継続しています。見学予約は不要で、来館者には入館記録票の記入をお願いしています。一般の方向けの展示解説ならびに団体見学の受け入れは、引き続き中止しています。また、博物館図書室は座席数が限られるためオンラインによる予約制とし、1日最大36名（2部入替制）。各定員は学内構成員16名、一般2名の利用が可能となっています。

漆器資料の寄贈を受けました

埼玉県鴻巣市の旧家から商品部門の資料として漆器をいただきました。蓋付の椀類のほか重箱、蒸籠などがあり、塗り技法としては黒漆、朱漆、溜塗、加飾も根来塗、批目、金時絵とバラエティに富みます。

箱書に嘉永5年（1852）、安政3年（1856）の年次のあるものがあり、また、梱包材に明治22年（1889）の町村合併以前となる戸長役場時代の反故紙が使用されていることから、江戸末期～明治前期の年代が判明します。木地は変形が目立つものの、洗浄すると塗られたばかりと見紛うばかりの色つやが現れ、100年以上の歳月を経たものとは信じられない状態です。



根来塗重箱(19世紀後半)



時絵暁鳥帆柱文蓋付椀(19世紀後半)

解説動画の公開

オンラインや学内ディスプレイでの公開を目的とした解説動画3本を新たに制作しました。博物館の概要・展示・施設を約3分間でコンパクトに紹介する「博物館総合紹介」動画は、11月に公開を開始しました。また、海外の方や本学の外国人教職員ならびに学生を対象とする英語版を1月に制作し、公開を開始しました。さらに、「これだけは見て帰ってほしい」という当館ならではの資料を紹介する「注目の収蔵資料紹介」動画では、各部門を代表する計9点の資料を取り上げています。どのような資料があるのか知りたい方にも、また当館を紹介したいという方にも活用いただけるコンテンツです（4月公開予定）。



For the Edo period (1603-1867), there are materials related to contemporary criminal investigations, interrogations of suspects in custody, trials, and punishments.



日本語版



英語版

明治大学ミュージアム「文化発信」資金(寄付制度)のご案内

明治大学ミュージアム（博物館、大学史資料センター及び阿久悠記念館）では、展示活動、教育普及活動及び研究活動を充実させ、更なる発展を図るため、個人・団体を問わず広く皆様にご支援をお願いしています。老若男女を問わず誰もがアクセスしやすく、先人の知恵に学ぶことができるよう努めてまいりますので、皆様からのお力添えをよろしく願いいたします。

いただいたご寄付は、他館から文化財などを借用する際の運搬経費や国内外の専門家を招いた講演会などの経費、収蔵する文化財などの維持・管理にかかわる修繕費、展覧会の企画等にかかわる調査研究の活動費に使用させていただきます。

税制上の優遇措置について

個人からの明治大学への寄付金は、文部科学省から寄付金控除の対象となる証明を受けており、所得税の寄付金控除の措置を受けることができます。

詳しくはこちら



寄付者顕彰

ご寄付を頂戴した方々へ、金額に応じて以下の御礼品をご用意しております。



① 3千円以上

広報誌「ミュージアム・アイズ(年2回刊行)」の御自宅への送付



② 5千円以上

①に加えて、明治大学博物館グッズの進呈(500円相当)



③ 1万円以上

①②に加えて、特別展図録(年1回刊行)の御自宅への送付



④ 3万円以上

①②③に加えて、特別展オープニングセレモニーへの御招待

申込方法

申込方法は以下の3種類からお選びいただけます。

① インターネット

クレジットカード又はインターネットバンキングによる決済がご利用いただけます。

詳しくはこちら



② 金融機関窓口

専用の払込用紙「未来サポーター募金・各種寄付金 申込書兼払込用紙」をフォームで申請、ご利用ください。

フォームはこちら



※電話でのお問い合わせも可能です。
03-3296-4448(博物館事務室)

③ 口座振替

銀行・郵便局等の金融機関の口座から自動引き落としによる継続的な寄付がご利用いただけます。

詳しくはこちら



展示 Zoom in!

二〇二二年度博物館特別展 校友山脈 第II部

神田学生街 140年の今↑↓昔

会期 2022年2月3日(木) から4月10日(日)

※4月10日は臨時開館

※開館日・開館時間詳細については博物館ウェブサイト等でご確認ください。



本企画では、絶えず成長と変化を続ける神田学生街のさまざまな「いま↑むかし」をめぐって、展示室とオンライン空間とを駆使してご紹介します。

明治大学駿河台キャンパスが所在する千代田区神田。ここは日本最古で最大の学生街「神田学生街」です。

本展示はSDGs 17の目標のうち、「4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」に資することを目指します。



〈神田学生街〉とは？

いまを遡ることおよそ140年前。江戸時代武家町であった神田区西端（現在の千代田区神田錦町から神田駿河台を含み、神田神保町までの一帯）に、教育機関が次々と設置されました。1886（明治19）年に駿河台に校舎を構えた明治大学もその一つです。

ほどなく同地区周辺には、日本屈指の学生たちの大きな生活圏が形成されました。下宿屋、書店、料理店、雑貨店……。学生たちの衣食住を満たす一大学生街が神田に誕生したのです。神田学生街は、時代や学生のライフスタイルなど各種の変化に対応しながら、学生の成長をはぐくむ揺籃（ゆりかご）として、持続的に変化と成長を続けています。



展示内容

「神田学生街の〈場〉」今↑↓昔

神田学生街の新旧さまざまなランドマークを、大学史資料センター所蔵の古写真をはじめとして活用し、紹介します。今昔景観の変遷にご注目ください。

〈紹介されている今↑昔〉

御茶ノ水駅前／お茶の水橋／聖橋から見る鉄道立体交差／かえで通り／吉郎坂、富士見坂／リパティタワー南脇の路地／錦華通り／すずらん通り／神保町ランドマーク／書店・古書店／靖国通り／明治大学からの眺め／神田古本まつりなど



明治大学 × SDGs



Ⅱ かつての明大生がみた 神田学生街

昨年実施した明治大学博物館特別展「校友山脈 明治大学の教育と人材」(2021年7月31日から11月3日)第Ⅱ部として、各界で活躍する明治大学校友(卒業生)が学生時代に目にした神田学生街の風景をご紹介します。

こんな方々のみた神田学生街を紹介

(敬称略)

石津謙介(ファッションデザイナー・ヴァンチャ
ケット創業者) / 岡本喜八(映画監督) /
大塚初重(考古学者) / 阿久悠(作詞家・作家) /
落合恵子(作家) / 三宅裕司(喜劇役者) /
校條真(編集者・ナビブラ神保町編集長) /
濱正悟(俳優) ほか

Ⅲ 神田学生街と 取り組む・愉しむ

SDGsの達成に向けて学生街とともにさまざまな
取組を行っている明治大学ゼミナール(商学部小林尚朗
ゼミナール・政治経済学部大森正之ゼミナール・情報
コミュニケーション学部島田剛ゼミナール)の活動の
自己紹介をしていただきました。

また、明治大学博物館学生広報アンバサダーによる
神田学生街のスポット紹介を展示室内で行っています。

アカデミーコモン1階に所在するカフェパンセ
で、小林ゼミ & Meiji Fair Trade Clubの「まち
チヨコ」、大森ゼミの
「明大エゴハニー」、島
田ゼミの「明治大学
SDGs「コーヒー」」
「神保町珈琲」を召
し上がったいただけ
ます。「コーヒー豆、ハ
ニー、チヨコの販売
も行っていきます。



学生広報アンバサダーのスポット紹介コラムは
以下で公開中

「のんびり神田学生街」明治大学博物館公式
note (<https://meiji-museum.note.jp/>) 内

取り上げた主なスポット

紫紺館椿山荘 / 神保町 ShishaCafe へー太 /
Tea House Takano
/ 湯島聖堂 / 神田
明神 / 米沢嘉博記
念図書館・現代マン
ガ図書館 / Librest
/ ラドリオ / on a
slow boat to...



連動企画 座談会 神田学生街に生きる

神田学生街と深い関わりのある明治大学卒業生の方々に、街と大学への思いを語っていただきました。学生街の町会関係者にお話を伺った第一部「神田学生街に暮らす」、神田でご商売やお仕事をされている方々にお話を伺った第Ⅱ部「神田学生街に商う」は明治大学公式noteで公開中。

連動企画2

明治大学漫画研究会による「駿河台周辺マンガマップ2022」を掲示。パンセのゼミメニューを召し上がっていただくといってくるランチョンシートが、マンガマップになっています！





最近の

あれこれ

巣ごもり研究

島田 和高（考古部門学芸員）

はじめに

2020年度博物館特別展「氷期の狩人は黒曜石の山をめざす―明治大学の黒曜石考古学―」では、長野県中部高地霧ヶ峰（きりががね）の一角で明治大学が推進してきた黒曜石と先史時代の人々とのかわりを究明する30年の足跡を紹介した（島田2020）。考古学で黒曜石といえば、限られた原産地を起点にして広域に利用された石器石材として、当時の狩猟採集生活にともなう遊動領域の復元や黒曜石の流通・交易といった広い空間スケールでの人々の活動を知るための材料として重視されている。しかしながら、中部高地の黒曜石原産地を対象としてきた明治大学の研究は、原産地での黒曜石をめぐる先史時代人の活動が、広域流通を可能とする大規模な石器製作といった類型的な活動だけではなく、最終氷期から現在の温暖期にかけての気候や植生の変動と関係するより複雑な様子を示すことを明らかにしてきた。

こうしたことから、旧石器時代から縄文時代にかけてのマクロな広域黒曜石利用の仕組みや歴史的变化をよりよく理解するためには、原産地での

ミクロな人類活動をより深く詳細に理解する必要があると考えるに至った。そこで、中部高地一帯の原産地が位置する標高1000m以上で3万年前よりも古い時代の森林限界と植生を詳しく知り、黒曜石遺物の原産地分析を駆使して原産地人類活動を復元することで最終氷期における黒曜石資源開発の実態を究明する共同研究を2019年度に立ち上げた（科研費基盤(B)19H01345)。ここでは、COVID-19による「巣ごもり研究」を余儀なくされつつも進めてきた、これまでの研究の概要を紹介する。

大阿原湿原でのボーリング調査

長野県入笠山（いしかがね）山頂付近にある標高約1800mの大阿原湿原（写真1）では、先行研究により3万年前の年代を持つ火山灰が湿原堆積物から得られており、後期旧石器時代前半期に遡る堆積物の花粉分析が可能かもしれない。そこで今回の共同研究では、大阿原湿原のボーリング調査とコアの花粉分析を計画した。フィールドワークには、共同研究のため各地から研究者があつまる必要が

ある。ところが、2020年以降のCOVID-19による各地の行動規制によりうまく実施のタイミングが合わず、大きく計画がずれ込んでしまった。そうしたなかでも、2021年10月末には機械ボーリングを行う地点を選定するパイロット



写真1 長野県入笠山大阿原湿原（2021年10月撮影）

トボーリングをなんとか実施し、鹿児島大学の吉田明弘さんを中心にヒラー型サンプラーを用いて12地点を掘削した。これにより有望な機械ボーリング地点を選定することができ、合わせて湿原の基盤地形を復元した。2022年1月現在、その際に得られた堆積物の年代測定を進めている。こうした成果をもとに2022年5月以降に専門業者による掘削を行い花粉分析のためのコアを採取する予定である。

中部高地黒曜石原産地と周辺地の後期旧石器時代石器群の原産地分析

中部高地原産地を舞台とした黒曜石獲得をめぐる人々のうごきを具体的に知るためには、産地とその周辺に残された黒曜石製石器の原産地分析が

必要である。これらの石器は、黒曜石原石を獲得する活動にともなって現地で製作された石器である可能性が高い。よって、これらの原産地を細かく判別することで、多数ある黒曜石産出地のどこを利用していたのか、黒曜石獲得領域を絞り込むことができる。

現在、石器の黒曜石原産地分析は蛍光X線分析(XRF)が主流である。XRFには試料を調製(破壊)して高い正確度で元素分析できるWD-XRFと非破壊で試料を分析できるが正確度では劣るED-XRFがあり、後者には、卓上型と携帯型(p-XRF)がある。p-XRFを用いた非破壊分析は、分析する人間が動くことで、測定する遺物を博物館などから借用する必要がなく所蔵現地で分析できるため、中部高地原産地とその周辺の多数の旧石器時代石器群を分析するには適している。そこで、今回の共同研究ではp-XRFを導入し、まずは原産地分析システムの立ち上げを行なった(写真2)。今回のシステムでは、WD-XRFによる化学組成の定量値が公表されている基準原石試料をp-XRFの検量線で測定し、原産地判別図を作成した(図1)。これには、長崎大学の隅田祥光さんが作成しオンラインで公開している黒曜石原産地データベース(Obsidian Source Online Database)を利用した。中部高地で産出する黒曜石は、WD-XRF分析による化学組成の特徴から14のグループに区分されてい²⁹ (Suda et al. 2021)。産出地点の座標もデータベースで公開されているので、霧ヶ峰や八ヶ岳でのそれらの地理的な位置関係もわかる。こう

して、2021年春までには、p-XRFを用いた黒曜石原産地分析のシステムを構築することができ、同年夏から中部高地原産地と周辺の旧石器時代石器群の原産地分析をはじめた。これまでに、諏訪市教育委員会と諏訪市博物館のご協力を得て、いずれも学史的に著名な霧ヶ峰の八ヶ岳原湿原付近に所在する雪不知遺跡と八島遺跡、諏訪湖東岸に位置する茶臼山遺跡の石器群から原産地分析結果を得ることができた。ちなみに、八島と茶臼山は明治大学の元学長である故戸沢充則先生が発掘した遺跡でもあり、明治大学とも縁が深い。雪不知と八島は星ヶ塔・星ヶ台の原産地(略称HH)と至近であるため、石器のほとんどがHH産黒曜石であり、いわば石器製作を目的とした合理的な原産地利用が行われていたようである。これに対して諏訪湖のほとりに位置する

茶臼山は、最も近い霧ヶ峰の黒曜石(主にHH)だけではなく、八ヶ岳の麦草峠・冷山の黒曜石(略称MS)も検出された(図1)。原産地から少し離れた周辺地では、より多彩で複雑な黒曜石獲得の履歴が残されているようである。しかし、現時点での原産地分析結果は、分析した石器が由来する原石の産出地点を同定しただけであり、当時の黒曜石獲得領域の復元にはさらなる考古学的な検討が必要である。

さて、今後もなかなか思うように外に出られない「巣ごもり研究」が続きそうではあるが、状況が好転する隙をみながら、大阿原湿原の古環境調査と中部高地周辺の旧石器時代石器群の原産地分析を進め、人と環境の相互作用としての黒曜石資源開発の実態解明に一步でも迫りたいと考えている。



写真2 携帯型蛍光X線分析装置 (Bruker Tracer 5i)

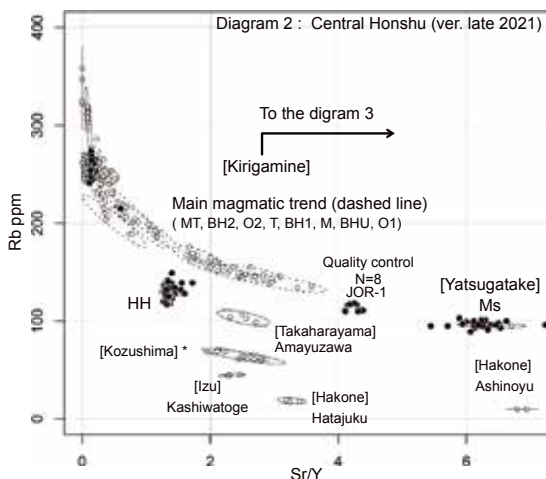


図1 p-XRFを用いた黒曜石原産地判別図の一例(基準原石試料のストロンチウム(Sr)/イットリウム(Y)濃度比とルビジウム濃度で作成した散布図に茶臼山石器群の分析値をプロットしている。●=遺物、○=基準原石試料。)

引用文献

島田和高 2020 『「氷期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学ー」ガイドブック』明治大学博物館, 104p.
Suda, Y., Adachi, T., Shimada, K. and Osanai, Y. 2021 Archaeological significance and chemical characterization of the obsidian source in Kirigamine, central Japan: Methodology for provenance analysis of obsidian artefacts using XRF and LA-ICP-MS. *Journal of Archaeological Science* 129. 105377.

知覧傘提灯

富永今男・作 鹿児島県 1995年収集

林田真由子

商

品部門の伝統的工芸品をはじめとする収蔵品はジャンルも幅広く多様である。今回はその中から著者が興味をひかれた、少しユニークな工芸品を紹介しよう。

知覧傘提灯はその名の通り、傘にも提灯にも使うことができる多機能な工芸品である。江戸時代後期に、薩摩藩(鹿児島県)の下級武士によって考案され、武士の内職として生産されるようになった。傘の骨組みとして周囲13cmほどの太さがある竹の、1節を32等分し、上下から手漉き和紙を貼り合わせて作られる。本品含めた後述する再興後の作品は、植物が漉き込まれたものや、模様の入った和紙を使用していることが多い(図)。大正時代頃までは実用性を重視した作りであったが、昭和に入ると装飾品としての価値に重点が置かれ、和紙ではなく絹張りのものが作られるようになり、海外に輸出されるほどの人気となった。しかし、戦時色が濃くなる中で生産を中止した。その後は1975年に再興され、鹿児島県指定の伝統的工芸品にも名を連ねた。現在は後継者不足のために生産されていない。

知覧傘提灯の多機能ぶりを写真とともに見てみよう。

1 武器・畳まれた状態

腰に差す、もしくは懐に入れ、とっさの時に抜き出した。

2 傘・半開き

1の状態を下から中に手を差し込んで、手のひらで押し広げる。日傘(笠)、小雨時の雨傘(笠)。頭に被った。閉じ具合によつては、扇子としても使用できるようなる。

3 提灯・全開

2の状態から内側を下に引き下げて広げる。実用品としては蝋燭を立てて使用したようだが、ランプシェードとしては、中に豆電球を入れて使うようになった。



後継者不足の問題は、多数の産地で課題となっている。各地で育成事業が立ち上げられるなど対策は練られているが、結局のところ購買層が育たない限り、工芸品の生産が続くことはないだろう。販路に関する言及は避けるが、技術の継承に関

(図) 館蔵品は笹と金箔を漉き込んだ和紙を使用。



しては、実物の工程見本や映像での作業風景を残し、一度絶えたとしても復興できるように記録を残すことが必要である。

上記に付随し、商品部門としてできることは、工芸品を知ってもらう窓口となることである。展示に限らず、現在当館で活発に活動しているSNSやオンラインミュージアムを有効に活用し、多角的に収蔵品をアピールするなど、産地に関心を繋げられるような活動が求められる。

〈参考文献〉

- 飯田正毅1995『かごしま文庫② 薩摩の伝統工芸』春苑堂書店
- 「[人ひと人]知覧傘提灯職人・富永今男さん(75)／鹿児島」2002年12月17日地方版P.18(毎索 閲覧日:2022年1月13日)
- 「(見て聞いて)知覧傘提灯、消える技 幕末からの伝統、後継者なく県指定解除【西部】」2012年3月31日夕刊P.10(聞蔵Ⅱビジュアル 閲覧日:2022年1月15日)
- 「この人この一品 知覧提灯傘 富永今男さん(59)鹿児島県知覧町」1986年10月26日朝刊P.29(聞蔵Ⅱビジュアル 閲覧日2022年1月19日)

日本近代化の遺産、ジェラール瓦

遠藤 瞳子

屋 根を葺く建築材料の一つに瓦がある。アジア地域やエーゲ海沿岸で古くから使用されてきた。近代以降は南北アメリカ大陸をはじめ、広く世界規模で使用されている。今回はそんな世界の瓦の中でも日本と縁深いフランス瓦を取り上げて紹介する。

幕末から明治期にかけ、日本は近代化のためにお雇い外国人*1を多く雇用した。彼らが暮らしていた外国人居留地には洋風建築が立ち並んでいたが、従来の日本の瓦(和瓦)では建物の見た目に合わず、新たに西洋瓦(フランス瓦)を製造することとなった。この製造に日本で初めて成功したが、横浜山手に工場を構えたフランス人の実業家アルフレッド・ジェラール*2である。彼が製造したフランス瓦はジェラール瓦とも呼ばれ、横浜居留地を中心に多くの洋風建築に使われた。二種類もしくは一種類の暗い色の瓦を一直線で葺く(図1)和瓦と違い、フランス瓦は明るい色の凹凸のない平瓦(板瓦)を上下左右に重ね合わせて葺く*3(図2)。このような瓦の葺き方がフランスで発明されたのは19世紀半ばで、ジェラールが横浜で瓦を製造し始めた1873年に重なる。またジェラールの工場では職人による手作業ではなく、機械による瓦の製造を行っていた。つまり彼は最新設備で最先端の瓦の製造を実現したのである。作られた瓦には

GERARD銘を入れたプレートが刻印されており、ブランド的地位を得ていた。ジェラール瓦は大きさからI型とII型に分けられ、I型はプレートの位置、表記内容などからさらに五種(A〜E)に分けられる。当館が所蔵する前場コレクションのジェラール瓦にはI型とII型があり、I型にはEとDがある。写真はII型の資料で、全長40cm、最大幅20cm、高さ35cmの長方形であり、表面中央の水返し*4と裏面を飾る菱形のレリーフが特徴である。プレートからはジェラールの名前と1878年に横浜で作られたことが読み取れるが、この瓦



ジェラール瓦II型(左:表面 右:裏面)

がどこのどのような建物に葺かれていたのかは分かっていない。

ジェラール瓦は当時の公共施設など大型洋風建築*5に多く用いられたが、一般住居のほとんどが和風建築で洋風建築が民家まで普及しなかったこと、最先端機械の維持費のためか割高で安い手製の和瓦に比べて売れ行きが悪かったことなど、様々な要因が重なり1890年代以降衰退していく。しかし、日本近代建築の先駆けとなったジェラール瓦は、近代化を支えた重要な遺産であるといえるだろう。

〈主要参考文献〉

- 青木祐介 2010『西洋館とフランス瓦ー横浜生まれの近代産業』横浜都市発展記念館
- 岡本東三 2002「開港横浜で生まれた仏蘭西瓦ージェラール瓦を叩いてみれば、文明開化の音がするー」『横浜市博物館紀要』Vol.6 P.1~36
- 大脇潔 2012「世界の瓦」『古代』第129・130合併号 早稲田大学考古学会 P.1~24

註

- *1 産業や教育の振興を目的とし、教育者もしくは指導者として日本に招かれた外国人のこと。
- *2 Alfred Gérard, 1837年~1915年。1863年来日。
- *3 千鳥葺き。耐風性・耐震性に優れている。
- *4 雨水などを溜めないため、流したい方向に勾配をつける。瓦の型式により形が異なる。
- *5 東京上等裁判所や東京カテドラル教会などで使用されたが現存せず。

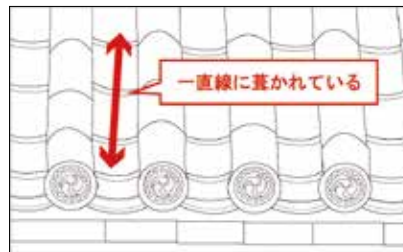


図1 和瓦葺きの屋根 トレース図

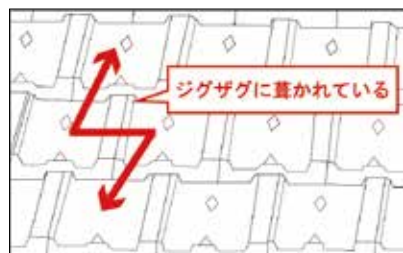


図2 フランス瓦葺きの屋根 トレース図

M2 カタログ

土偶グッズをゲットしよう!

常設展示室考古部門の人気者・土偶が新しいグッズとして続々登場!
 おにぎり頭とすました表情、ピンと伸びた両手が可愛い、千葉県江原台遺跡出土の山形土偶をモチーフとしたアクリルキーホルダー。
 さらに昨年世界遺産となった、青森県亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶と山形土偶がコラボした土偶Tシャツ。
 どちらも考古ファン必見のアイテムです!ぜひお買い求めください。

山形土偶キーホルダー 税込価格 300円
 土偶Tシャツ(サイズ:XXL/XL/L/M/S) 税込価格 各1,100円



山形土偶キーホルダー



土偶Tシャツ

ミュージアムショップ開室時間

月~金 10:00~16:30 土 10:00~12:30
 ※日曜日・祝日・大学が定める休日および夏季・冬季休業日は閉室
 ※販売品・価格・開室時間は変更する場合があります

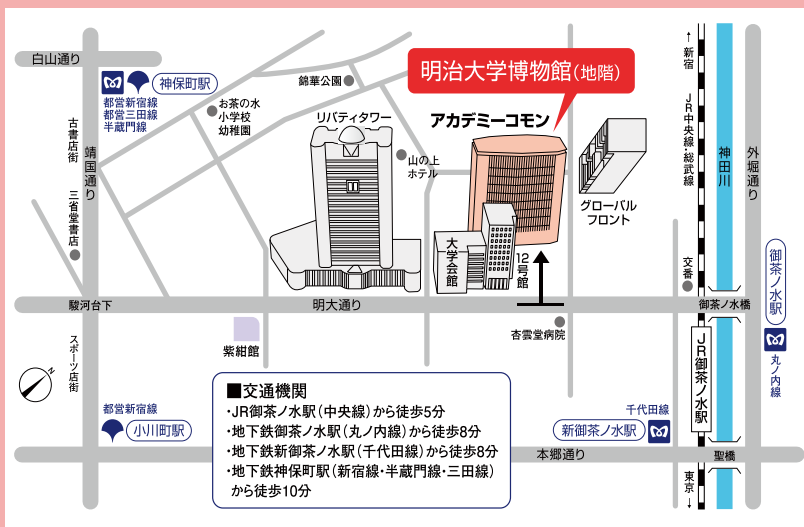
来館案内

展示室ご利用案内

- ◆開室時間
平日 10:00 ~ 17:00 (入館16:30まで)
土曜 10:00 ~ 12:30
- ◆休館日
夏季休業(2022年8月10日~16日)
冬季休業(2022年12月26日~2023年1月7日)
- ◆観覧料
常設展無料
特別展は有料の場合があります。

図書室ご利用案内

- 現在新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、オンラインによる事前予約制を導入しています。詳細は博物館ホームページをご覧ください。
- ご利用は蔵書の閲覧・コピーのみとなります。



現在新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、展示室・図書室・ミュージアムショップの開室日時については変更・臨時閉室する場合がありますので、博物館ホームページで確認してください。

